

青葉区片平地区民生委員児童委員協議会

(平成 26 年 7 月 31 日掲載)

1. 地域の特性

片平地区民児協の担当地域は、片平丁小学校区と一部荒町小学校区（若林区）の通学区域で、住民組織としては片平地区連合町内会（20 名）と五橋地区連合町内会（7 名、欠員 2 名）があり、活動も混在一体化したものとなっています。

地理的には、東北端は仙台市の中心市街地に隣接した、戸建住宅と高層マンションと企業ビル街であり、南端は広瀬川の河岸段丘沿いの自然豊かな地域に発展した城下町の風情を残した閑静な住宅地域です。また、地域の中央には東北大学や東北学院大学が所在する文教地区でもあります。

2. 震災当時の状況

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、千年に一度と言われるような甚大な被害をもたらした東日本大震災が発生してから 4 年目を迎えました。

地震直後、手分けして地域を回り、倒壊家屋や怪我人の有無、独居高齢者の安否確認を行ないました。直後は電話も不通で情報収集はほとんどできませんでした。民生委員の仲間の中にも、津波で実家が流失し、ご家族を亡くされた方がいました。

当地域の被害として、マンションにおいては家具の転倒や食器破損が多く、戸建住宅では屋根瓦の落下や割れが目立ちました。また、坂の中腹にあった旅館が倒壊し、循環道路が 1 か月間閉鎖されました。

断水はなく、停電も翌日の夜には復旧しましたが、ガスは 1 か月間止まりました。また、食料や生活必需品が 3 日程で尽き、家族全員で店頭に並びました。

後でわかったことですが、民生委員のほとんどは委員としての活動遂行と、自分の家庭を守ることへの葛藤に陥ったとのことでした。ある民生委員は、食料を求めて店頭で 3 時間並びましたが、避難所運営に関わっている方のことを考えると申し訳ない気がしたとのことでした。

片平丁小学校には、片平地区連合町内会役員、地区社協役員、民生委員が集結し、約 1,200 名の避難者の対応にあたりました。避難所運営の訓練を行なっていませんでしたが、分刻みに委員会を開催し、時系列的に課題解決をしたことが高く評価されています。

荒町小学校にも、一時 1,200 名余の方が避難されました。薄暗い体育館は避難者で溢れ、足の踏み場もありませんでした。荒町市民センターを二次避難所とし、災害時要支援者や高齢者を優先し、細やかな対応ができたとのことでした。教職員、荒町地区防災委員、荒町地区民生委員が集まり避難所運営を行ないました。

また、五橋中学校には、仙台駅や周辺からの帰宅困難者が押し寄せ、体育館・武道館は避難者で溢れましたが、交通手段が確保されると徐々に少なくなりました。避難所運営は行政主導で行なわれ、五橋地区連合町内会や民生委員が関与すること

はありませんでした。

どの避難所も3月末まで運営されました。避難所運営の終了をいつ通知するかは判断が難しく大変だと言いますが、入学式を迎えるにあたり、避難先を市民センターに統合し対処したとのこと。市民センターは6月頃まで、市内の体育館は9月頃まで避難所として使われました。

3. 関係機関との連携について

平成24年度、東日本大震災を踏まえて仙台市では「避難所運営マニュアル」の大幅な見直しを行ないました。職員向けに作成していたマニュアルを、実際に運営にあたる行政・地域・施設が共有する「地域版避難所運営マニュアル」を作成し、そのマニュアルによる地域の防災訓練を行ない、自助・共助・公助の役割を明確化しました。

さらに、自主防災組織の支援事業として、仙台市消防局が「仙台市地域防災リーダー(SBL)の養成講座を開催し、2年間で数百名の防災リーダーが誕生しました。当民児協にも有資格者2名が活動しています。

平成24年度には、荒町市民センターの地域懇談会主導で「荒町小学校区避難所運営委員会」を設立しました。構成団体は地区連合町内会、学校、防犯協会、民児協、消防団、若林区役所などで、毎年総合防災訓練を行なっています。



ぐらら体験・震度6弱



倒壊家屋・救出訓練



救急搬送訓練

同様に、青葉区の要請を受けて、五橋中学校避難所運営準備委員会(五橋地区)、片平丁小学校避難所運営準備委員会(片平地区)をそれぞれ立ち上げ、平成26年度には避難所運営訓練を実施する予定です。

さらに、「片平地区まちづくり協議会」では事業の一環として、霊屋下復興公営住宅(平成27年度入居予定・121戸)の新たな住民の受け入れについて検討を行なっています。

すでに、民間借り上げ住宅等については仙台市から情報があり、担当の民生委員・児童委員が対応しており、災害時要援護者登録制度利用者については町内会と連携した見守り活動も行なっています。

被災地支援の形態は種々ありますが、町内会の親睦旅行を宮城県南三陸町志津川方面として地域活性化に協力したり、若林区の荒浜小学校の周辺で行なわれた防災林植樹会のイベントに参加しタモの木などを植えたりしました。



防災対策庁舎・震災遺構



唯一残った荒浜小学校



植樹寸景・タモ他 9 種類

4. 民生委員・児童委員の関わりについて

震災以降、新聞には毎日のように被災地の復旧・復興について報道されてきました。復興住宅でのコミュニティづくりは大切な問題の1つです。お茶っ子サロンや健康サロン活動で交流の場を増やし効果を上げている地域があります。

支援する場合、今求められているものは何かを知ることが大切と言われます。「物・お金・仕事・家族・生きがい」など多種多様であります。地域の現況を把握し、地区民児協としてできることを模索しながら関わっていかれたらと思います。

毎月、子育て支援事業として「あかちゃんタイム」と「にこにこサロン」を片平市民センターで開催していますが、この体験も生かせると考えています。

最後になりますが、七夕かざりに市内の小中学生が祈りを込めて折った千羽鶴に心を打たれました。私たちにできることは、記憶にとどめること、語り継ぐこと、1人でも多くの方に笑顔が戻られるよう手を差しのべることと思います。



小中学生が祈りながら折った七夕かざり

鶴の下には校名の名札が付いています。

中を覗くと文字が見えました。～しっかり 見つめながら～